

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり 436

—シリーズ— あなたの人権・わたしの人権

「自分で判断できる人になりたい」

森中央小学校 六年

後藤 夕貴

昨年五月、アメリカで黒人の男性が、白人の警察官からひざで首を地面に押し付けられ死亡した。

亡くなった黒人男性は、うめき声をあげ、

「息ができない、助けてくれ。」

と、白人警察官に繰り返し訴えていたという。

私は、ニュースで知ってびっくりした。怖かった。差別で人が死んだ事実を初めて知った。

事件の様子は、その場に居合わせた人が動画を撮影し、SNSで拡散された。

事件への怒りの抗議行動は各地に広がり、抗議デモでは、一部の参加者が暴徒化し、略奪や放火が発生した。

暴徒化することは許されないが、抗議デモをしている人の気持ちはよ

くわかる。差別によって人が殺されているんだ。怖いし、悔しいし、悲しいに決まっている。激しい怒りも当然だ。

「私たちも人間だ。」「あと何人死ぬばいいんだ。」という声をあげた人もいる。人種差別は、決してあってはならない。

差別はほかにたくさんある。

例えば、性差別。以前、友だちから紹介されて、「武器より一冊の本をください」と少女マララ・ユフザイの祈り」という本を読んだ。

女性というだけで、教育を受ける権利を奪われてしまう。場合によっては命を奪われるなど、幸せが一気に崩れさったことなどが書かれています。

女性というだけで、学校で勉強できないなんて納得できないが、こんなおかしさを変えようとする動きが世の中に起き始めていることも知った。

男女に関係なく、一人ひとりが自

分らしく生きる社会の方がだれもが生きやすい社会だと思う。ジェンダーレス社会の実現に向けた取り組みがもっと進むといいと思う。

インターネットは便利だ。何でも簡単に調べたり、見たりすることができる。SNSで自分のことを発信することもできる。でも、炎上したり批判的なコメントを書かれたりすることもあり、それが原因で自殺する人もいる。

誰かを傷つけたり差別したりすることは良くないって、みんなきつとわかっているはずなのに、実際にはそんなことが起きてしまう。なぜだろう。

私は、まだSNSでのトラブルを経験したことはない。でも、学校生活の中で不安になることはある。

友だちと話しているとき、みんなの顔をうかがってしまったり、本音が言えないことがある。

変なことを言ったり、嫌われるんじゃないか、しらせさせてしまうんじゃないかと考えてしまう。友だちの輪から外れてしまわないかと心配になることもある。

良くないとわかっていても差別が起くるのは、よく考えずに差別に加わってしまう人がいたり、自分が攻撃されることが怖かったりするから

ではないかと思う。

今、やっていることが誰かを傷つけていないか、目の前のことだけでなく先のことも考えて、自分で判断できる人になりたい。

「ジェンダーレス」とは「ジェンダー」社会的・文化的につくられた性差をなくしていくという考え方
例 同じ職種なのに男女で呼び名が違ったものを共通のものに。
保母・保父 → 保育士
看護婦・看護士 → 看護師

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを「二〇〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して(匿名可)、珍珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。

